

中部の

エネルギーを 築いた



福沢桃介二世・駒吉のパイオニア精神

～その1: 矢作水力(株)から中部工業界に貢献～

福沢駒吉の実業界のスタートは、1916(大正5)年に東海曹達(株)取締役社長、1919(大正8)年に矢作水力(株)取締役に就任したのに始まる。その後、水力発電を開発し、電力を多量に消費する化学工業や製鉄事業部門の企業を興し、昭和12年に矢作製鉄(株)、昭和19年に東亜合成化学工業(株)の取締役社長などに就任した。

今回から数回にわたり電力王・福沢桃介の威光に負けないパイオニア精神を発揮した福沢桃介二世・駒吉の生涯を紹介する。



福沢駒吉

〔1891(明治24)～1945(昭和20)〕
(出典：矢作水力株式会社十年史)

駒吉の生涯と名前の由来

福澤駒吉は、1891(明治24)年、福沢桃介、ふさの長男として東京で生まれた。ふさは日本の先駆者福沢諭吉の2女で、駒吉は孫にあたる。

(1) 駒吉の名前の由来

父・桃介の実業界入りはアメリカ留学帰国後の1889(明治22)年、北海道炭鉱鉄道株式会社で、北海道に赴任した。同社は同年、幌内炭鉱と幌内～小樽間の官営幌内鉄道の払い下げを受け設立され、株主は福沢諭吉、徳川義礼、渋沢栄一、高島嘉右衛門など蒼々たるメンバーが出資し、薩摩出身の堀基が社長に就任した。やがて、ふさが妊娠すると東京を恋しがり、男4人、女5人の子福者で子煩悩であった両親も初孫のため寒い冬を心配して、社長の同意を得て翌年10月、桃介を東京支社支配人に転勤させた。

ふさは、翌年1月5日に男子を産み、北海

道での生活をなつかしみ駒吉と名付けた。

ところで、稚内市に開基100年記念・北方記念館がある。ここの福沢農場と北方農業コーナーに御料馬車が展示されている。堀基から稚内の牧場を譲り受けた桃介は、アメリカの農場をモデルにして独立採算の大牧場経営を目指した。この時に小樽から船で稚内に行き、福沢牧場までこの御料馬車を利用した。

(2) 矢作水力(株)の2代目社長に就任

矢作水力は1919(大正8)年に矢作川水系の電力開発を目的に設立され、電力国家管理により1942(昭和17)年に解散した。この間の歴代社長は井上角五郎(1919～1928)、福沢駒吉(1928～1940)、成瀬正忠(1940～1942)の3人で、駒吉は設立時に取締役、大正11年に副社長、昭和3年に2代目の社長に就任した。引継ぎに当たり、井上角五郎は「君は将来福沢2世として大いに活躍すべき

人である。父君は一代の傑物で電力界の大立物であり、福沢王国の建設者である。君は体軀堂々として実に健康その物の如く、頑丈作りで、大きな線で荒けづりの如くがっしりとしている。これは君が運動家であり、活動家であることを如実に示しているもので、君は体力の旺盛に任して、朝早くから精進と努力を続けている。朝は夏冬ともに早朝5時頃から起床して、運動する、これは十年一日の如く欠かしたことがなく、君の早起きは有名なもので、君があのがっしりした、堂々たる体軀はこの運動から生まれたものと云ってもよい。

君が真面目な活動家であり、体力も健康に恵まれているから、福沢2世として、今後、福沢王国の統率者として大を為すであろう。…君は大正2年慶応義塾を卒業して、他年父君を援けて実業界に入り、父君の成功の裏には必ず君があつてこれを補佐していた。…そして早くから、得意の自動車を操縦して自らハンドルを握って運転する。自動車も道楽と見るべく、色々持っている。柔道も2段という猛者で、中堅実業家として重きをなし、今後は君の活躍舞台に入るべきであろうから、年は若いし、実力はあり、真面目な堅実たるやり口から推察するも、相当大きな足跡を実業界に印して、飛躍をされることを待望される。」と、思いを語っている。

(3) 矢作水力(株)の発電所記功碑

岐阜県恵那市上矢作町の下村発電所沈砂地・水路沿いに、矢作水力が1932(昭和8)年、6つの発電所(下村・飯田洞・押山・真弓・上村・島)竣工を記念して建立された発電所記功碑と新田藤太郎制作の福沢桃介胸像がある。

発電所記功碑(地上高:2.8m、幅:2.3m、奥行:1m)の正面上部に福沢桃介の筆になるてん額「弧矢利天下(こしててんかをりす)」



発電所記功碑
題額は「弧矢利天下」



福沢桃介先生寿像
(新田藤太郎作)

の題字が刻まれている。裏面には「工事大要、建設当時における現場着値段及び労銀」と題したプレートがある。ここには6つの各水力発電所について工事着工期日、同竣工期日、発電力、kW当たりの建設費、白米1升、セメント1樽、鉄材1貫目の各価格および人夫1人当たりの労賃が記されている。

碑文は次のとおりであるが、横書きにして、読みやすくするために○や点(,)は筆者が付け加えた。

「発電所記功碑

矢作川は源を恵那山連邦に発し、亘長30里23町にして知多灣に注ぐ。上流は水勢急にして、水量豊なり。而も尾三の都市に近接し本邦有数の水力発電地点たり。福沢桃介氏を中心とする大正企業組合は夙(つと)に、此處に着眼し大正2年5月河水出願し、同7年7月其許可を得たり。會々欧州戦乱の影響を受けて本邦工業の勃興著しく、ために電力の需要激増の時期に際会したるを以って、大正8年3月同氏系統の下に矢作水力株式会社を創立し、井上角五郎氏を社長に、杉山栄氏を専務取締役役に、福沢桃介氏を相談役に推し、専ら本水系の開発に努む。大正8年4月下村発電所を着工以来昭和2年11月島村発電所竣工に至る、8カ年7カ月の間に建設したる発電所は下村、飯田洞、押山、真弓、上村、島の6個を数え、其発電力は24330kWに達す。

其費額は932万4千余円にして、之に従事したる延人員は94万5千余人に上る。此の間に着々として、尾三都邑への送電線を完成し、中部日本工業界に貢献するところ尠からず。茲に建設関係者を併記してこれを記念す。

前相談役・名誉顧問	福沢桃介
前社長・名誉顧問	井上角五郎
社長	福沢駒吉
前専務取締役・副社長	杉山 栄
支配人	久留島通彦
技師長	小山隆一
技師	桜山宗次
請負人	西本健二郎
同	飛島文吉

昭和7年5月 矢作水力株式会社」
 なお、矢作水力の詳細については次号で紹介することにして、福沢駒吉の略歴については次の通りである。

福沢駒吉の略歴

西曆	和歴	年齢	履 歴
1891	明治24		福沢桃介、ひさの長男として出生(1月5日)
1913	大正2	23	慶応義塾大学法学部卒業、米国へ留学
1916	大正5	26	東海曹達株式会社取締役社長就任
1918	大正7	28	福沢一太郎2女八重子と結婚
1919	大正8	29	矢作水力株式会社取締役就任
1922	大正11	32	矢作水力株式会社取締役副社長就任
1928	昭和3	38	矢作水力株式会社取締役社長就任、昭和曹達株式会社取締役社長就任
1933	昭和8	43	矢作工業株式会社取締役社長就任
1934	昭和9	44	鶴見曹達株式会社取締役社長就任
1935	昭和10	45	四国曹達株式会社取締役社長就任
1937	昭和12	47	矢作製鉄株式会社取締役社長就任
1939	昭和14	49	矢作水力株式会社役員会長就任
1941	昭和16	51	矢作製鉄社長辞任
1942	昭和17	52	矢作水力は電力国家管理により解散
1944	昭和19	54	東亜合成化学工業株式会社取締役社長就任 (矢作工業は昭和曹達、北海曹達、レーヨン曹達の3社を合併)
1945	昭和20	55	逝去、多磨墓地に埋葬

(寺澤 安正)